

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000013		
法人名	医療法人勤労者医療協会北見病院		
事業所名	勤医協グループホーム たんぼぼ		
所在地	北見市常盤町5丁目4-7		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果市町村受理日	令和2年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勤医協病院(月1回の訪問診療)、訪問看護(週1回の訪問)と医療連携し利用者の健康面を支えている。「ゆっくり、のんびり、自分らしく」の理念に基づき利用者本位の支援を心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0195000013-00&amp;Ser">nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0195000013-00&amp;Ser</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぼぼは、勤医協北見病院を母体に平成18年に開設しています。管内では初めての看護小規模多機能事業所が併設されています。勤医協病院が利用者のかかりつけ医と成っており毎月1回の訪問診療や週1回の訪問介護が行われ利用者、利用者家族の安心を得た医療体制が整っています。また、重度、終末期の対応も成されており、看取りの体制が構築され令和元年にも看取りに取り組み利用者、家族からは信頼を得ています。「ゆっくり、のんびり、自分らしく」を理念に慌ただしくなる事の無い生活が出来る様取り組んでいます。毎月の支援経過には利用者の行動や発言が詳しく記載されており、なお且つ介護計画のサービス提供の達成度を評価し提供状況や見直しに役立てる様にしています。利用者は自分の現在の状態に合わせた役割作業や楽しみが出来て、張り合いを持った生活が出来ています。毎年春には町内会の花見が近所で開催され多くの利用者が参加し近隣住民とも開設時から良好な関係が出来ており母体病院の健康祭りには多くの住民の参加を得ています。町内会向けに年3回通信を発行し、理解を得ながら相互交流を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりのんびりじぶんらしく」の理念を部会やカンファレンスなどで確認し実践できるよう努力している。	理念を各ユニットリビングに掲示して意識の元に置きながら、日常的に利用者一人ひとりが自分らしく生活し理念を実践する様取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や花見などに参加している。	開設以来地域との付き合いは多く町内会の花見等に参加したり、母体の法人の健康祭りに来ていただき相互の交流ができています。また、町内会向けに通信を発刊しグループホームの日常を知らせ理解を得る様に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会向けの通信で認知症や介護について学んだことをお知らせしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの取り組み状況などを報告し、出された意見をサービス向上につなげている。	運営推進会議は年6回、併設の看護小規模多機能事業所と合同で開催し、各事業所の利用状況、主な行事や地域への取り組み、職員の取り組み、インシデント、アクシデントの報告を行い質問、意見を得て運営に活かしています。利用者家族には報告をし、閲覧できるように掲示しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から事業運営のアドバイスをいただいている。	市担当者とは報告書提出で訪問し、指導や助言を得ています。また運営推進会議で意見や助言を得ており積極的に取り組みを伝えながら協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、色々な場面で拘束や虐待に繋がっていないか検討している。	身体拘束廃止に向けては、管理者、主任、各ユニット職員一名からなる委員会を設置しグループホーム内での介護について検討しています。また、部会(グループホーム全体会議)にて研修を行っており、身体拘束の弊害や不適切な言動について正しく理解し身体拘束の無い介護に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加したり、部会などで学習し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年権利擁護の学習会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明を行い理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口がある事をお知らせしている。ご家族や利用者の意見を真摯に受け止め、運営に反映させるよう努力している。	利用者、利用者家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努め、ある時は管理者、職員が共有して反映できるよう努めています。また、年4回程度通信を発行しておりその中で日常の様子を知らせ理解を得ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や面談などで機会を設け意見を出してもらっている。	職員の意見や提案は日常の業務の中や毎月の部会の中で把握するよう努めています。職員は医療、レクリエーション、環境整備、物品、食材等の各係を担当しています。	勤務状況等、法人担当者等による、更なる職員の意見の把握を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件整備などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるようにしている。働きながら資格取得が出来る様支援している。介護職委員会で研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会に加入し、学習会に参加し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報が不足しているが利用者の要望を丁寧に聞きとり、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前後や来所時などご家族の要望を丁寧に聞き取り信頼関係を築くことが出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の要望に基づきカンファレンスを行い支援できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の生活状況を伺い、出来る仕事を見極め一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設でできない事はご家族に協力をお願いし、話し合いをしながら支援関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて病院や美容院などに出かけられるよう支援している。	利用者の馴染みの美容室への訪問は家族の協力を得て支援しています。また、ボランティアにより囲碁の趣味を楽しんでおり関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	社会的な利用者が中心になり、昔話や趣味などの話題に興じられる場面がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年は相談や支援などの例はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に要望を出してくれる利用者については把握できる。困難な方はご家族などから情報をいただいている。	利用者の思いや暮らし方の意向は日常の会話の中や家族、かつて利用していた施設からの情報を得て実現できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前利用していた施設から情報収集し、センター方式のシートに落とし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録表、排便表、センター方式シートなどで把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを半年ごとに行い家族の意見も反映するようにしている。毎月の部会でケアについての話し合いをおこない介護計画に繋げている。	介護計画は基本的には目標期間の6か月を目途に、利用者や家族の意向を把握し、毎月の部会でカンファレンスを行い見直しています。介護時の様子は支援経過を毎日記録しており、その中で会話や行動を詳しく記載し、サービス提供状況が達成度で評価され見直しに役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録表にケアプランの評価項目を追加することにより介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容や社協ボランティアの利用などがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の花見、法人の健康祭り、市の菊祭りなどの行事に参加できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人病院がかかりつけ医になっており1か月に1度の訪問診療があり、ご家族も安心している。	勤医協の月1回の受診・週1回の訪問看護体制、内科以外のかかりつけ医通院は家族対応ですが日々の状況が記載されている連絡表でスムーズに受診出来るよう支援しています。緊急の場合は職員が対応し医療機関と連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内にある訪問看護と医療連携している。1週間に1度の訪問で相談を行い、受診などに繋げている。看取りの際も医療契約を結び協力してケアにあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は書面にて情報提供をおこなっている。退院前カンファレンスに参加し関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から終末期と告知された時は、ご家族や訪看主治医、外来看護師などと話し合いを行い、情報の共有に努めている。	入居時に重度化した場合の指針等を説明し理解と同意を得ています。訪問看護と契約し状態の確認や相談等も出来る体制となっています。昨年は1名の看取りをしており、利用者・家族の希望に沿った看取りが行えるよう話し合いや内部研修を実施し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し随時確認している。学習会があれば参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣の看護小規模多機能と共同で年2回避難訓練を実施している。部会で報告している。	消防の立ち合いのもと夜間想定火災避難訓練が併設の看護小規模多機能事業所と共同で年2回実施されています。訓練に参加出来ない職員には部会で説明をしています。町内会長・ボランティアも参加し地域住民の協力体制も整えています。	避難経路の確保(非常口からスムーズに避難できる方法)・寒さに対する備えの取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴、着替えなど羞恥心に配慮すべき場面では十分に注意血ている。	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払っています。主に食事・トイレ・入浴時には、より丁寧な声掛けをするよう職員全員で取り組み実践しています。目立たずさりげない言葉で声掛けし、個人の私物はイニシャルで記載することでプライバシー保護も徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄や入浴、着替えなどの際には本人の希望を聞くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、レクリエーション、入浴などの意思を確認し参加してもらうようにしている。趣味の書道や手紙を書く時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水をつける、ブラシで髪をとかす、好みの服を着るなど本人の意思を尊重する支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛り付け、味見、食器洗い、食器拭き、片付け、テーブル拭きなど出来る事を1人一人に合わせた支援をしている。	利用者と職員と一緒に準備や片付けを行い、1人ひとり楽しみながら出来る事を行っています。昼食は手作りしており、それぞれの希望のメニューを取り入れたり、行事食、ケーキ作り等も行っています。昼食時は、ボランティアの協力もあり楽しい食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調や嚥下力に合わせた食事形態になるよう努力している。食事や水分量は記録表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行い、口腔内の清潔に努めている。口腔状態に合わせたブラシなどを使用したり、個々人にあった介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、日中はなるべく布パンツと尿取りパッドで生活できるように支援している。失禁が多い方もなるべくトイレで排泄が出来るように支援している。	個人ファイルで排泄状況を共有して、排泄パターンで誘導し、出来るだけトイレで排泄が出来るように支援しています。トイレの数も多く、トイレの表示や場所も分かりやすくなっています。また、利用者が開け閉めしやすく、扉の開閉の音も静かな扉に交換しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者全員が排便がスムーズではないため、食物繊維の多い食事や果物、牛乳などを提供したり、運動や水分摂取などで便秘にならないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意向を伺い希望されない時は時間や日にちをずらして入浴して頂いている。	浴室は広々としており、基本的には週2回の入浴。利用者・家族からの要望があれば同性職員の介助も対応しています。入浴出来ない時は清拭、足浴で清潔を保っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、運動量や年齢、体調などを考慮し休んでいただいている。夜間は安眠できるような環境づくりに努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿った服薬支援を行っている。受診後は薬情書の確認をしている。薬変更後の体調の変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人友の会主催の友の会カレーに参加したり、趣味の書道を嗜んだり、日々楽しんで頂いている。友の会ニュースや新聞に目を通している。1Fに行き交流をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て、家族との会食や散歩などが出来るように支援している。天気の良い日は散歩をしている。	事業所では、蓮の花見学、もみじ狩りのドライブ、町内会の花見、焼肉の参加、事業所隣の畑のミニ菜園、近所の散歩等の外出支援を行っています。家族の協力を得て外食や美容室へ出かけたたり、利用者の希望に沿えるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持の希望はないが希望の物はご家族に購入をお願いしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときはご家族に電話をしてお話が出来るようにしている。手紙を書ける方は自由にやり取りができるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員も環境の一つのため、大きな声や物音を立てないように心がけている。季節に合わせた掲示物を工夫している。	共有空間は広々とした造りで明るく、壁には季節の飾りつけや行事の写真が展示されて家庭的で温かい雰囲気となっています。廊下の所々にソファが設置されており、個々に利用される工夫をしています。大判のタオルを干して湿度を保つ等、湿度と室温は適切に管理され居心地が良い空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースやテレビ前のソファなどを自由に使える様工夫している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具や寝具、飾り物、カレンダーなどを用意して頂き安心して過ごせるようにしている。	居室には片側一面クローゼットがあります。利用者の馴染みの持ち物やベッド、テレビが持ち込まれており、ご本人らしい生活環境になるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全館バリアフリー化されている。トイレの表示や居室の表札など解りやすく工夫している。いたるところに手すりが設置され安全に移動できるようになっている。		